

みんな楽しく自転車に乗るために

山内浩平

卒業式の三月十四日は季節はずれの大雪で、式の後、友達と自転車で行くはずの食事が中止になった。高校入試発表の日も冷たい雨で自転車で行けなかった。四月になるうとしている今も雪が降るので、友達と自転車でソフトテニスの練習に行ける日が待ち遠しい。

僕はソフトテニス部に入っていて、自転車で試合に行くのが大好きだった。五十人以上も部員がいるので、青信号の点滅した交差点や警報機の鳴り始めた踏み切りに突っ込む人がいて危険もあったが、先生が、四つの班単位で判断して行動するようにしてくれると、自転車で一時間近くかかる試合会場への移動が、先輩と話せる楽しい時間になった。

しかし二年生の夏、二年生が引退してキャプテンを任せられると、部員全員が目的地へ着き、また学校へ全員で戻ってることが、僕の使命となった。自転車で交通量の多い車道や車が猛スピードで走り抜ける農道を通って、いろんな中学に練習試合に行く度に、僕は、車道や農道を一列で走っているか、長い列が車や歩行者に迷惑をかけていないか、無理をして踏み切りに突っこんで行っていないかを列の一番後ろから確認しながら走った。

でも小雨で線路や道路が滑る日もあれば、暑さで疲れている時もある。試合に負けてだらだらしている時もある。どんな時もみんながそろって学校に着くまで集中して行動することは難しく、その度に、僕が先生から注意されてしまった。そしてさらに悪いことに、自転車までパンクしてしまい、かなり落ち込んで自転車屋さんに向かった。すると、
「古い自転車やと思ったら、死んだ澤崎のおんちゃんの自転車やが…。自転車が大好きな人やったで、天国で喜んでるぞ。」
と自転車屋のおじいさんに言われたのだ。

澤崎のおんちゃんとは、近所の人で、亡くなった後は、母がおじいちゃんの自転車を譲り受けて乗っていた。僕は、交通指導員をしていたおじいちゃんが部員の安全を守ってくれるような気がして、試合の時には必ずこの自転車で乗って行くことにしていた。

改めておじいちゃんとの思い出や、古くなったこの自転車を大切に乗り続けようと思うと、久しぶりにあったかい気持ちになれた。そしておじいちゃんがいつも望んでいたように、交通ルールやマナーを守り、部員の安全を守ってみせると再び決心した。

あつという間の一年で、大会の成績が残せたこともうれしいが、試合に負けた後でも、自転車でみんなと帰ってくる間に気持ちを切り替えることもできたし、みんながルールやマナーを守り、事故やケガもなく移動できたことが本心にうれしいし部員に感謝している。

そして今は、入試発表後や卒業式後はもちろん、今の僕がうかれています。危険だから、天国の澤崎のおじいちゃんが雪を降らせて、事故から守ってくれているのかもしれない。